

【機関報告】

ポーランドヤギェロン大学 文献学部東洋学研究所日本・中国学科

Jagiellonian University, Faculty of Philology, Institute of Oriental Studies, Department of Japanology and Sinology

所在地：（日本学科） ul.Pilsudskiego13, Krakow, 31-110 POLAND

Tel&Fax：+48-12-663-3845

Homepage: <http://www.filg.uj.edu.pl/ifo/>

ヤギェロン大学文献学部東洋学研究所は、アラビア学科、インド学科、イラン学科、トルコ学科、日本学科の5つの学科から成る。日本学科は、1978年に開講された日本語講座を土台として、1987年に専攻学科として開設されてより、現在24年目を迎えている。ポーランドでは日本学科の学生は同じ東アジアの言語からもう一言語履修しなければならないが、当研究所日本学科では中国語を必修科目として開講している。

日本語学習者数（2010/2011年度）

学士課程1年	学士課程2年	学士課程3年	修士課程1年	修士課程2年
20名	24名	15名	21名	11名

教員数：13名（日本人5名、ポーランド人8名）

学年暦（2010/2011）：

入学式	10月1日
前期授業	10月2日～1月27日
クリスマス休暇	12月22日～1月2日
前期試験期間	1月28日～2月10日
学期間休み	2月11日～2月17日
追試期間	2月18日～2月24日
後期授業	2月25日～6月14日
イースター休暇	4月1日～4月6日
後期試験期間	6月15日～6月28日
追試期間	9月1日～9月15日
学年末休暇	6月29日～9月30日

開講科目(2010/2011) :

学士課程 1 年			
前期		後期	
実用日本語	6コマ/週	実用日本語	6コマ/週
漢字	3コマ/週	漢字	3コマ/週
文法 (講義)	1コマ/週	文法 (講義)	1コマ/週
文法 (演習)	1コマ/週	文法 (演習)	1コマ/週
日本文化	1コマ/週	日本学入門	1コマ/週
学士課程 2 年			
前期		後期	
実用日本語	8コマ/週	実用日本語	8コマ/週
漢字	2コマ/週	漢字	2コマ/週
文法 (講義)	1コマ/週	文法 (講義)	1コマ/週
文法 (演習)	1コマ/週	文法 (演習)	1コマ/週
現代日本文学	2コマ/週		
日本史	1コマ/週	日本史	1コマ/週
学士課程 3 年			
前期		後期	
実用日本語	5コマ/週	実用日本語	5コマ/週
漢字	2コマ/週	漢字	2コマ/週
古典日本文学	1コマ/週	古典日本文学	1コマ/週
日本文学ゼミ	1コマ/週	日本文学ゼミ	1コマ/週
翻訳	1コマ/週	翻訳	1コマ/週
中国文学	1コマ/週	中国文学	1コマ/週
中国語	2コマ/週	中国語	2コマ/週
学士卒演	1コマ/週	文語	2コマ/週
修士課程 1 年			
前期		後期	
実用日本語	6コマ/週	実用日本語	6コマ/週
日本語特別演習 (日本思想)	1コマ/週	日本語特別演習 (漢文)	1コマ/週
日本語学	1コマ/週	日本語学	1コマ/週
古典日本文学演習	1コマ/週	古典日本文学演習	1コマ/週
翻訳	1コマ/週	翻訳	1コマ/週
文学ゼミ	1コマ/週	文学ゼミ	1コマ/週
中国語	2コマ/週	中国語	2コマ/週
修士卒演	1コマ/週	修士卒演	1コマ/週
修士課程 2 年			
前期		後期	
実用日本語	2コマ/週	実用日本語	2コマ/週
論文指導	1コマ/週	論文指導	1コマ/週
文学ゼミ	1コマ/週	文学ゼミ	1コマ/週
修士卒演	1コマ/週	修士卒演	1コマ/週

使用教材：

「実用日本語」及び「漢字」の授業で使用している教材は以下のとおり

学士課程1年

- 『初級日本語』東京外国語大学留学生センター（凡人社）
- 『GRAMATYKA JAPONSKA 日本語文法』ROMALD Huszcza（ヤギェロン大学出版局）
- 『BASIC KANJI BOOK』加納千恵子、清水百合、竹中弘子、石井恵理子著（凡人社）

学士課程2年

- 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』小柳昇著（語文研究社）
- 『KANJI IN CONTEXT』アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター編（ジャパンタイムズ）

学士課程3年

- 『ニューアプローチ中上級日本語完成編』小柳昇著（語文研究社）
- 『KANJI IN CONTEXT』アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター編（ジャパンタイムズ）

修士課程1年

- 『テーマ別上級で学ぶ日本語』松田浩志、亀田美保、田口典子、阿部祐子、桑原直子著（研究社）
- 『VOICES FROM JAPAN ありのままの日本を知る・語る』永田由利子著（くろしお出版）
- 生教材、小説や新聞など、日本事情に関する内容

修士課程2年

- 『テーマ別上級で学ぶ日本語』松田浩志、亀田美保、田口典子、阿部祐子、桑原直子著（研究社）
- 生教材、伝統的な日本文化に関する内容（日本文化発信ボランティアによる授業）

学士課程1年生の実用日本語では、初級教科書を用いる授業の他、音声学の授業も開講しており、日本語の音声的特徴を理解しながら、発音練習をする。1年生から3年生までの実用日本語は、この音声学を除き、全てポーランド人教師と日本人教師が同じ教科書を分担して進めていく。主にポーランド人教師が文法や語彙の導入、説明を行い、日本人教師が会話練習や口頭発表などの活動を担当する。3年次には日本人教師による、全て日本語で行われる文学演習が始まるので、2年生終了時までにはそのような授業を受けることができる基礎をしっかりと身につけることを目指す。修士課程の学生に対しては、上級教科書による精読と、語彙や表現を増やす地道な学習の一方で、現代日本社会の様々な現象について知り、考えることを期待した授業を展開している。日本人にインタビューする、母語話者同士の発話を聞く、討論やディベートをする、考えを文章で表現するなどの活動により、日本語の能力をバランスよく伸ばすと共に、テーマについて調べ、分析し、ポーランド社会との比較をするなどの活動を通し、自立した学習者であることを支援していく。